

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度（和暦）	平成31	年度	②採択期間 （通常A型は5年間、B型は3年間）	5	年間 （1年未満は切上げ）	③事業の型 （AまたはBを記入）	A	型
④日本側拠点機関名（和文）	東京大学生産技術研究所							
⑤コーディネーター部局名・職名・氏名（和文）	東京大学生産技術研究所・教授・金範ジュン							
⑥日本側協力機関名（和文）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
東京大学大学院工学系研究科								
東京大学大学院薬学系研究科								
東京大学定量生命科学研究所								

⑦参加研究者数内訳 （重複カウントしないこと）	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポストドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者	合計	第三国所属の研究者 （内数）
拠点機関	10	17	25	68	0	120	0
協力機関・協力研究者	5	5	4	7	0	21	0
合計	15	22	29	75	0	141	0

⑧手引2-4記載の参加資格のない者の内訳（適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）		
所属・職	専門分野	研究交流での役割
該当なし		

⑨「第三国所属の研究者」内訳（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を確保する方法
該当なし			

2. 経費

事業の型 A 型			
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳	金額 (単位:円)	備考	
研究交流経費	国内旅費※1	0	
	外国旅費※1	10,324,671	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	656,883	
	その他経費	2,304,333	
	不課税取引・非課税取引に係る消費税※2	1,114,113	
	計	14,400,000	
業務委託手数料	1,440,000	研究交流経費の10% (1円未満切捨)。消費税額は内額とする。	
合計	15,840,000		

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税(免税)の区分に応じた対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)				
③ 日本側の参加研究者による旅費	日本側参加研究者のうち、所属機関が日本である者の旅費の総額(単位:千円)		10,325	
	日本側参加研究者のうち、所属機関が日本以外である者の旅費の総額(単位:千円)	日本→日本以外の渡航		0
		日本以外→日本の渡航		0
		日本以外→日本以外の渡航		0
④ (相手国側参加研究者)の総額	日本または相手国→日本の渡航	(単位:千円) (千円未満切捨て)	左記のうち、第三国所属の相手国側	日本または相手国→日本の渡航
	日本又は相手国→相手国の渡航		日本又は相手国→相手国の渡航	
	日本または相手国→第三国の渡航		日本または相手国→第三国の渡航	
	第三国→日本の渡航		第三国→日本の渡航	
	第三国→相手国の渡航		第三国→相手国の渡航	
	第三国→第三国の渡航		第三国→第三国の渡航	

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。

経由国がある場合は、日本拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤ (B型のみ) 中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合(交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)		
総額(単位:千円)	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明	
⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)(単位:千円、千円未満切捨て)		
全相手国のマッチングファンド総額	相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均
8,098	2	4,049

3. 共同研究・セミナー

事業の型		A 型							
①共同研究 (適宜、行を加除すること。)				現在の年度に○を付けること→					
共同研究 整理番号	共同研究課題名 (和文)	日本側代表者氏名・所属・職名	1年目	2年目	3年目	A型のみ			
			実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓		
R 1	癌・悪性新生物の診断と治療に関する研究	興津輝・東京大学生産技術研究所・特任教授	○	○	○	○	○	○	○
R 2	肝不全に対する肝臓再生に関する研究	酒井康行・東京大学大学院工学系研究科・教授	○	○	○	○	○	○	○
R 3	感染症のポイントオブケアでの診断に関する研究	金範ジュン・東京大学生産技術研究所・教授	○	○	○	○	○	○	○
共同研究の実施状況 (当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引6-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。)									
R 1	当該事業の前身である研究拠点形成事業A「バイオ融合マイクロ・ナノメカトロニクス国際研究拠点」(H24-28)の成果のひとつであるSMMIL-E (スマイリー、Seeding Microsystems in Medicine in Lille-European-Japanese Technologies against Cancer-)の一環として実施している。「癌・悪性新生物の診断と治療に関する研究」として実施した。								
R 2	東京大学生産技術研究所が、パリ公的支援病院連携の主要施設であるポールブルース病院、肝臓胆道疾患センター (Hôpital Paul Brousse, Centre Hépatobiliaire : CHB)が中心となって進めている、肝不全に対する肝臓再生を目的としたプロジェクト、iLite (Innovation in Liver Tissue Engineering) と連携して実施している。今年度の成果として、肝不全に対する肝臓再生のためのOrgan-on-chip開発の開始と肝細胞中での薬剤モニタリングを可能とするセンサデバイスの開発を行っている。								
R 3	東京大学生産技術研究所が、MEMS系のセンサーの分野、超精密加工技術、高分子ソフト材料を活用したバイオ技術の方面で先端的な研究を実施しているスイス連邦工科大学ローザンヌ校と一緒に、さらなる緊密な共同研究体制を構築し、医工連携の研究と教育体制を確立することを目指している。金属酸化ナノ粒子の直接合成によるガスセンサの開発を共同研究として始めた。また、がん免疫に関する研究を行っているローザンヌ大学、Coukos Lab, Ludwig Institute for Cancer Research (LICR), University of Lausanne (UNIL)研究室を訪問、今後のスイスの拠点において連携機関、共同研究相手を拡張することを計画している。								

②セミナー (当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。)				
セミナー	セミナー名 (和文)	セミナー名 (英文)	開催地 (国名・都市名・会場)	開催期間 (○年○月○日～○年○月○日 (○日間))
S 1	日本学術振興会研究拠点形成事業LIMMSワークショップ	LIMMS Workshop & Anniversary Celebration Seminar CNRS and IIS, Univ. of Tokyo (JSPS C2C JETMeE)	日本	2019年10月11日 (1日間)
S 2	日本学術振興会研究拠点形成事業SMMIL-Eワークショップ	Workshop on BioMEMS and Cancer/ SMMIL-E towards clinics: Developments & Opportunities	フランス	2019年12月13日～14日 (2日間)
S 3	日本学術振興会研究拠点形成事業iLiteワークショップ	iLite joint LIMMS - UTC - JSPS Core to Core workshop on advanced liver bioengineering and biomedical microtechnology	フランス	2019年10月21日～22日 (2日間)
S 4	日本学術振興会研究拠点形成事業JETMeE国際スクール	2019 JETMeE International School	日本	2020年2月 (2日間) (COVID-19拡大の影響で開催せず)
S 5	日本学術振興会研究拠点形成事業JETMeEワークショップ	2019 MicroTAS and JETMeE EPFL meeting	スイス	2020年10月29日 (1日間)
S 6	日本学術振興会研究拠点形成事業JETMeE セミナー	Transducers 2019 & inside JETMeE Seminar	ドイツ	2019年6月23-27日 (5日間)
セミナーの開催状況 (当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数 (総数、参加国名ごとの参加人数 (本事業経費による負担の有無を問わない)、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引6-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。)				
<p>S-1 日本学術振興会研究拠点形成事業LIMMSワークショップは、10月11日、アントワープ・ブチCNRS理事長ら東京大学内外の研究者を招き、六本木・政策研究大学院大学海楼ホールで開催した。総参加人数は119名、内訳は日本：91名、フランス：28名である。</p> <p>S-2 日本学術振興会研究拠点形成事業SMMIL-Eワークショップは、12月13日～14日、2日間、フランスのリール市にて、「BioMEMS and Cancer-SMMIL-E towards clinics: Developments & Opportunities」という主題のもと、SMMIL-Eが開催した。総参加人数は43名、内訳は日本：13名、フランス：30名である。</p> <p>S-3 日本学術振興会研究拠点形成事業iLiteワークショップは、2日に渡って開催された。1日目は、「iLite joint LIMMS - UTC - JSPS Core to Core workshop on advanced liver bioengineering and biomedical microtechnology」の主題のもと、ポールブルース病院、肝臓胆道疾患センターにて開催され、総参加人数は22名、内訳は日本：10名、フランス：12名である。2日目は、iLite (Innovation in Liver Tissue Engineering) 分担施設であるコンピエーニュ工科大学 (UTC) にて開催された。総参加人数は42名、内訳は日本：10名、フランス：32名である。</p> <p>S-4 日本学術振興会研究拠点形成事業JETMeE国際スクールは、2020年2月中旬に東京都内での開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が発生してしまい、COVID-19拡大の影響で先の見通しが立たず、開催ができなくなった。</p> <p>S-5 日本学術振興会研究拠点形成事業JETMeEワークショップは、2019年10月27日から31日、スイスパーゼル (Basel) 市にてMicroTAS 2019 (The 23rd International Conference on Miniaturized Systems for Chemistry and Life Sciences) 国際学会が開催され、その期間中、国際学会の参加、研究成果発表と共にスイス連邦工科大学ローザンヌ校でJETMeE EPFL meetingとして開催された。本事業関連での総参加人数は63名、内訳は日本：16名、フランス：29名、スイス18名である。</p> <p>S-6 日本学術振興会研究拠点形成事業JETMeE セミナーは、2019年6月23日から27日まで、国際学会Transducers 2019 が、ドイツ (第三国) のベルリン市で行われ、S6 JETMeE Seminarを同時企画した。本事業関連での総参加人数は40名、内訳は日本：6名、フランス：14名、スイス20名である。</p>				
③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況 (セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7 (7) 参照のこと。)				
S6 日本学術振興会研究拠点形成事業JETMeE セミナー： 2019年6月23日から27日まで5日間において、本事業の主要研究分野の「マイクロ・ナノ・バイオ融合研究分野」で世界中一番最も権威がある国際学会Transducers 2019 が、(Eurosensors XXXIII、この学会は2年に一度開催され、第20回となる今回は、Eurosensors学会と共催にもなって、機械・電気・化学・バイオなど多岐にわたる技術を駆使したセンサー、アクチュエータに関する研究を幅広く取り扱う学際的な国際学会である。) ドイツ (第三国) のベルリン市 で行われ、本事業の成果発表の意味は勿論、日欧だけではなく、世界中の研究者らにさらに広く共有、発信できるよう、S6 JETMeE Seminarを同時企画した。スイス連邦相手国のコーディネーターがその学会のGeneral Chairとし、日本側のコーディネーターはTPC (Technical Program Committee) memberでもあり、本事業の広報を含めて、将来共同研究・交流に関して有意義な議論ができた。フランスとスイス拠点の各コーディネーターと相手国拠点機関参加者らの参加経費は、各自で負担しているし、本国際学会の場をかりて本事業のセミナー開催費用を節約できた。				
④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合、日本側拠点機関にとってのメリット (セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引4-4 (1) ①参照のこと。)				
該当なし				

4. 研究交流状況

事業の型 A 型								
①日本→海外の渡航数(本事業経費による渡航)(適宜、行を加除すること。)								
国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1	フランス	7	8	6	2	0	23	1(大学院生)
2	スイス	2	1	2	5	0	10	1(大学院生)
3	ドイツ(第三国)	1	0	0	0	0	1	
計		10	9	8	7	0	34	
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) 2019年6月23日から27日まで5日間において、本事業の主の研究分野の「マイクロ・ナノ・バイオ融合研究分野」で世界中一番最も権威がある国際学会Transducers 2019が、ドイツ(第三国)のベルリン市で行われ、本事業の 成果発表の意味は勿論、日だけでなく、世界中の研究者らにさらに広く共有、発信できるよう、S6 JETMeE Seminarを同時企画した。スイス連邦相手国のコーディネーターがその学会のGeneral Chairとし、日本側のコーディネーターはTPC(Technical Program Committee) memberでもあり、本事業の広報を含めて、将来共同研究・交流に関しても有意義な議論ができた。フランスとスイス拠点の各コーディネーターと相手国拠点機関参加者らの参加経費は、各自で負担しているし、本国際学会の場をかりて本事業のセミナー開催費用を節約できた。								

②海外→日本の渡航数(本事業経費による渡航)(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名(派遣元) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1	該当なし						0	
計		0	0	0	0	0	0	
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) 該当なし								

③日本以外→日本以外の渡航数(本事業経費による渡航)(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)										
国名(派遣元)		国名(派遣先)		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1	該当なし								0	
計				0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) 該当なし										

④海外→日本の渡航数(相手国経費による渡航)(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣元)		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1	フランス(CNRS, Inserm, Yncrea)	7	5	3	2	0	17
計		7	5	3	2	0	17

⑤日本→海外の渡航数(相手国経費による渡航)(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣先)		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1	該当なし						0
計		0	0	0	0	0	0

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	フランス
②拠点機関名(和文および英文) 和文: フランス国立科学研究センター 英文: Centre National de la Recherche Scientifique	
③コーディネーター所属 (英文)	CNRS-UMR7338, Université de Technologie de Compiègne・Research Director・Eric LECLERC
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) 和文: オスカーランプレー癌センター病院 英文: Centre Oscar Lambret	
和文: パリ公的支援病院連携 英文: Assistance Public - Hopitaux de Paris (APHP)	
和文: リール第一大学 英文: University of Lille	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	11	8	2	5	3	29	
協力機関・協力研究者	33	15	4	7	17	76	
合計	44	23	6	12	20	105	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
CNRS-UMR7338・技術補佐員(Bioengineering) 3名	
Centre Oscar Lambret・医師(Oncologist, MD)11名	
Inserm・生物学者(技術補佐員等) 3名	
CHRU Lille・医師(Surgery等, MD)3名	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥14,400,000			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額(単位:千円)	換算レート日(例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎	CNRS	Soutin de Base	1,350	2020/3/31	ユーロ	119.5
	○	CNRS	MITI	172	2020/3/31	ユーロ	119.5
	○	CNRS	LIMMS/CNRS-IIS UMI Contract cooperation	198		円	
	○	French Government	PIA(ILTITE)	293	2020/3/31	ユーロ	119.5
	○	ANR	JCJC (SMARTGUIDE)	99	2020/3/31	ユーロ	119.5
	○	EU	EU-ATTRACT	130	2020/3/31	ユーロ	119.5
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	○	CNRS	Soutin de Base	916	2020/3/31	ユーロ	119.5
	○	CNRS	PEPS	229	2020/3/31	ユーロ	119.5
	○	CNRS	MITI	8	2020/3/31	ユーロ	119.5
	○	UTC & CNRS	UTC, CNRS, 東大の共同契約	720		円	
	○	French Government	PIA(ILTITE)	900	2020/3/31	ユーロ	119.5
	○	EU	EU-ATTRACT	16	2020/3/31	ユーロ	119.5
	○	ANR	JCJC (SMARTGUIDE)	15	2020/3/31	ユーロ	119.5

(4)相手国側研究者の相手国内旅費	○	UTC	プログラム名なし	93	2020/3/31	ユーロ	119.5
	○	支援機関名不明	iLite	28	2020/3/31	ユーロ	119.5
(5)相手国側研究者の研究経費	×						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	○	UTC	プログラム名なし	857	2020/3/31	ユーロ	119.5
	○	CNRS/UTC	UMR 7338	81	2020/3/31	ユーロ	119.5
	○	SFR Cancer	Programme Cancer	166	2020/3/31	ユーロ	119.5
	○	CNRS	SBASE SLILLE	296	2020/3/31	ユーロ	119.5
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	×	合計		6,567			

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	スイス連邦
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: スイス連邦工科大学ローザンヌ校 英文: Ecole Polytechnique Federale de Lausanne (EPFL)	
③コーディネーター所属 所属局・職名・氏名 (英文)	IMT (Institute of Microengineering) ・ Professor ・ Juergen BRUGGER
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: パーゼル大学 英文: The University of Basel	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	5	1	3	0	0	9	
協力機関・協力研究者	1	0	0	0	0	1	
合計	6	1	3	0	0	10	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)					※参考: 日本側研究交流経費 ¥14,400,000	
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート(外貨1単位に 相当する円貨額)	
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること	1							
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×							
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×							
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×							
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	◎	EPFL	LMS1	1,186	2020/3/31	スイス フラン	113.21	
(5)相手国側研究者の研究経費	○	EPFL	LMS1	345	2020/3/31	スイス フラン	113.21	
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×							
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計		1,531				

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。